

杉原千畝と南アフリカのユダヤ人

在南アフリカ日本国大使館

第二次世界大戦中、リトアニアのカウナス領事館に赴任していた日本の外交官杉原千畝は、ナチス・ドイツの迫害によりポーランド等の欧州各地から逃れてきた難民たちの窮状に同情し、1940年7月から8月にかけて、外務本省からの指示にある要件を満たしていない者に対しても多くのビザ（通過査証）を発給し、勇気ある人道的行為で避難民を救ったことで知られています。

その避難民の多くが、ユダヤ人系でしたが、杉原千畝氏に命を助けられたユダヤ人の子孫が、ケープタウンにもいます。

サラ・フェルドマンさんは、ユダヤ教のラビ（司祭）の夫人ですが、祖父に当たるシモン・ゴールドマン司祭は、ポーランド Shedlitz にてナチの侵攻に遭遇します。幸運にもシモン・ゴールドマン司祭は、ロシアに逃げ、神学生達と共にリトアニアの Vilna に入りました。そして、カウナスの日本領事館で命のビザを取得しました。幾多の危機を逃れ、神戸、上海に渡り、家族の中で祖父ひとりだけが奇跡的に生きのびることができました。

サラ・フェルドマンさんは、「スピルバーグの映画で広く知られるようになったオスカー・シンドラー氏は、自らの工場で雇った1,200名の命を救いました。しかし、杉原千畝氏は、シンドラー氏ほど知られていません。シンドラー氏が助けた5倍にあたる6,000名もの命を救った杉原氏のことを、より広く知られることを願っています」と述べています。

杉原氏が、査証を発給した人のリストをサラ・フェルドマン氏自身もご覧になったそうですが、祖父のシモン・ゴールドマン氏の名前はリストの第2029番目にありました。

2016年、シモン・ゴールドマン氏は91歳で亡くなりました。